

山口大学理学部

第9号

数理科学科だより

数学者・隈本有尚

山口大学の歴史において、数学者が何度か要職に就いているようだ。特に、創基 200 周年「山口大学の来た道 2」でも紹介されている隈本有尚の逸話が面白い。

明治 23 年、彼は 30 歳の若さで山口高等中学校(山大の前身)の教頭兼数学教師となる。彼は大変厳格な人物で、当然講義も厳しかった。例えば、その厳しさを赴任以前の東京大学予備門の教員時代(明治 17~18 年)に知ることが出来る。予備門時代、彼は数学を「英語」で、夏目漱石、正岡子規、南方熊楠、秋山真之、山田美妙らに教えているが、英語が苦手な子規はこのために数学が理解出来ず試験に落ち、予備門を卒業出来なかった。

そんな厳しさも人物観察鋭い漱石にとっては格好のキャラクターであつたらしく、有尚を数学教師・山嵐先生として『坊っちゃん』に登場させ、また山口高等中学校において有尚の講義の厳しさ故に起きたと言われる「寄宿舍騒動」を「バツ騒動」として描いている。(文：近藤)

編集：山口大学理学部数理科学科

連絡先：083-933-5210(理学部学務係)

<http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/dep/math/ex>